

網走港における大規模油流出事故対応訓練について ～サハリンプロジェクトに関連する油流出事故への備え～

第一管区海上保安本部 警備救難部 救難課 海上災害対策室

～はじめに～

本年8月23日(日)網走港内及び沖合海域において、平成21年大規模油流出事故対応訓練を実施しました。本訓練は、網走市が主催し、「網走市防災訓練」として実施したもので、ロシアサハリン州で開発が進められている「サハリンプロジェクト」を見据え、「サハリンからの原油を満載した大型タンカーが宗谷海峡で衝突事故により原油が流出した。」との想定により、海上保安庁、北海道開発建設部、自衛隊、消防、警察、石油連盟、産業廃棄物協会など19機関、325名、巡視船艇3隻、ヘリコプター2機、網走漁協所属の漁船も参加し、沖合での油回収、漂着油への対応、回収油の処理など、海陸両面からの対応訓練を行いました。

【訓練実施日時】：平成21年8月23日(日) 11:00～12:00(机上訓練)

13:00～15:00(実働訓練)

【訓練実施場所】：網走港第4埠頭及び前面海域並びに沖合海域

●サハリンプロジェクトと油防除訓練について

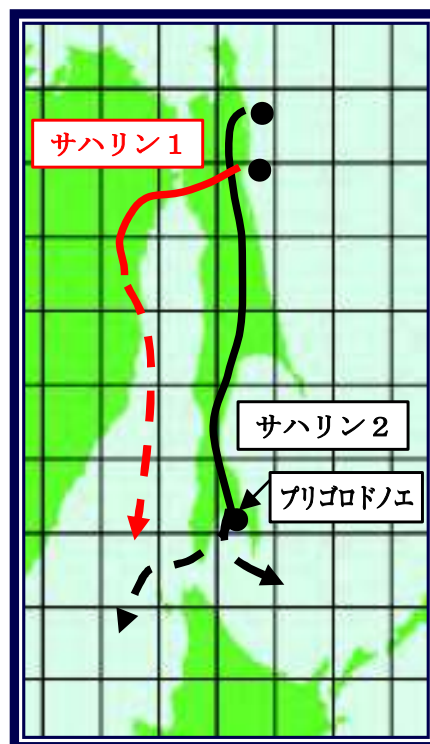
サハリンプロジェクトはサハリン島沖で進められている石油・天然ガスの開発プロジェクトで、現在サハリン1とサハリン2が稼動しています。

サハリン2プロジェクトで採掘された原油やLNG(液化天然ガス)は、10万トン前後の大型タンカーに積み込まれ、アニワ湾のプリゴロドノエ港から宗谷海峡を經由し、日本を含む各国に運ばれています。

サハリンプロジェクトに関連する油排出事故については、排出源として掘削現場(プラットフォーム等)における事故(暴噴事故)や輸送タンカーによる事故(衝突や乗揚げ事故)、更には陸上施設による事故が想定されます。

また、これら事故の形態により被害の程度も大きく違いがあり、とりわけ北海道に直接大きな被害をもたらさずであろう大型タンカーによる油排出を伴う衝突事故や乗揚げ事故は、大量の油が、しかも短時間でオホーツク海沿岸に漂着することが懸念されています。

これら事故への対応として、洋上での油回収と陸上での漂着油に対応する各関係機関との組織単位での連携が必要不可欠であるため、当本部では万が一の事故に備え、オホーツク海沿岸において各関係機関合同による官民一体となった大規模な油防除訓練を企画し、



各自治体の協力を得ながら平成19年の紋別市、昨年の稚内市に続いて本年は3回目の訓練実施となります。

【訓練概要】

●現地対策合同本部設置、運営及び情報共有

流出した油がオホーツク海を南下し、網走沿岸に漂着した場合、甚大な被害の発生が懸念されるため、網走市に災害対策本部を設置したほか、各関係機関による災害対策現地合同本部を設置し、各機関の対応状況や今後の油防除方針について協議を行いました。

また、本訓練では各機関情報共有のため、海上保安庁函館航空基地所属ヘリコプターくまたか等により撮影した映像を現地合同本部のモニター及び訓練会場に設置した大型スクリーンに映し出しました。



災害対策現地合同本部での会議



訓練会場に設置した大型スクリーンに映し出された洋上での訓練状況

●油処理剤空中散布訓練

海上保安庁釧路航空基地所属ヘリコプターたんちょうにより空中からの油処理剤空中散布を実施しました。

この装置は、オイルスピルファイターという機体付きの散布装置で機内の専用タンクに約380リットルの処理剤が搭載可能です。

なお、北海道内でこの散布装置を設置できる機体はこのたんちょうのみです。



ヘリコプターによる油処理剤の空中散布

●海上ガス検知訓練

サハリンで採掘される原油は非常に揮発性が高いと言われており、万が一流出事故が発生した場合は揮発性ガスによる引火爆発、人体への影響など二次災害の防止を図らなければなりません。

このため、巡視船そらち（紋別海保）により海上でのガス検知を実施しました。



巡視船そらちによる海上ガス検知

●洋上での油回収訓練

洋上では巡視船えりも（釧路海保）による「大型真空式油回収装置」（網走配備）の運用訓練、巡視船そらち（紋別海保）による「中型油回収装置の運用訓練」を実施しました。

巡視船そらちによる回収訓練は石油連盟との合同訓練として実施したもので、関係機関との連携強化という意味から大変有意義なものになりました。

また、本訓練では漁場油濁被害救済基金が研究開発した「(小型)簡易流出油回収装置」を網走漁協所属漁船に設置し運用訓練を実施しました。



「大型真空式油回収装置」運用中の巡視船えりも



「中型油回収装置」油回収訓練（Jフォーメーション）
（巡視船そらち、作業船益栄丸）



「(小型)簡易流出油回収装置」運用中の網走漁協
所属漁船

※大型真空式油回収装置

サハリンプロジェクトの進捗状況を見据え、平成12年3月に網走に配備された高粘度対応型油回収装置で、1時間あたり約90トンの油水回収が可能です。

●オイルフェンス輸送及び展張訓練

災害派遣要請を受けた自衛隊員により、オイルフェンスの輸送訓練を行い、その後、網走地区沿岸排出油等災害対策協議会会員によりオイルフェンスを港内に展張しました。



自衛隊によるオイルフェンスの輸送訓練



オイルフェンス展張訓練

●沿岸漂着油回収訓練

網走市が中心となり陸上自衛隊及び地元消防団により「漂着油の回収訓練」を実施したほか、沿岸部への流入防止のための土のう作りと「土のう積み訓練」を実施しました。

漂着油や洋上で回収した油は産業廃棄物協会の強力吸引車や自衛隊のユニック付きトラックなどにより最終処分場に搬送します。



「漂着油回収訓練」

●交通、立入規制及び住民避難訓練

漂着地区付近住民を対象として、揮発性ガス等による二次災害防止のため、警察による立入規制訓練、網走市広報車による避難勧告の実施、網走市及びボランティアの先導による住民の避難誘導を行いました。



「住民避難訓練」



「土のう積み訓練」

～おわりに～

今回の訓練は、万が一の事故に備え各関係機関の役割を確認すること、そして横の繋がり、連携強化を目的として実施しました。

大量の油排出事故への対応としては、平成9年のナホトカ号事故を教訓に法律の改正など国の油防除体制の強化が図られたほか、サハリンプロジェクトに対する安全確保と事故時の対応策についても議論され、北海道沿岸の排出油防除計画の改訂にあわせ、大型の油防除資機材も北海道に重点配備もされてきましたが、まずは事故を起こさない、起こさせないことを第一として、万が一事故が発生した場合はいかにして被害を極小化するかを考えなければなりません。

第一管区海上保安本部としては、サハリン島に最も近い対応管区として、事故発生時における対応策の検討や訓練の実施、さらにはタンカーによる海難事故のリスクを少しでも軽減させるため、関連情報の収集や安全情報の提供などの取り組みも行ってまいりますので、今後とも御協力をよろしくお願い申し上げます。